

審査の結果の要旨

氏名 費川 信幸

本研究は、統合失調症を抱える者の家族に対する心理教育プログラムを、医療機関に普及することを目的に作成された心理教育普及ガイドライン・ツールキットの活用が、普及の阻害要因として知られている施設スタッフの家族心理教育に関する知識や治療的態度に及ぼす影響を明らかにするため、1年間の普及ガイドラインの実施度（フィデリティ）によって施設スタッフの知識や治療的態度に差が見られるかを、全国8医療施設を対象に検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 普及ガイドラインのフィデリティと、1年後の知識や治療的態度の高さ、かつまたは1年間の知識や治療的態度の変化量の散布図より、いくつかの知識や治療的態度は、フィデリティの高さと線形関係にあることが示された。これらの知識・治療的態度は、1年間ガイドラインをより活用した施設で高くなることが示唆された。
2. 心理教育プログラムに関与するスタッフの1年後の知識と治療的態度を、ベースラインの得点を調整した共分散分析によりフィデリティの高低2群間で比較した結果、フィデリティの高い施設のスタッフは、低い施設のスタッフよりも、家族心理教育の認知度、家族心理教育の効果の知識、家族心理教育プログラムに参加する自信、ストレングス志向性、家族のケアニーズの認知度が有意に高いことが示された。
3. 施設全スタッフの知識と治療的態度を、フィデリティの高中低3群およびベースライン・1年後の時間を要因とする共分散分析により比較したところ、フィデリティの高い施設のスタッフは、1年後の家族心理教育の認知度、家族心理教育の患者本人および家族への有用性の認知度、家族心理教育の効果の知識、ケア行動の幅、ストレングス志向性が、ベースラインよりも有意に高いことが示された。また、フィデリティが高い施設のスタッフの1年後における家族心理教育の認知度、有用性の認知度、効果の知識は、フィデリティが中等度の施設や低い施設のスタッフよりも有意に高いことが示された。フィデリティが中等度の施設のスタッフは、1年後の家族心理教育の認知度と効果の知識のみが、ベースラインよりも有意に高いことが示された。フィデリティが低い施設のスタッフでは、知識や治療的態度において、ベースラインと1年後でこのような有意な差は認められなかった。
4. フィデリティの低い施設の全スタッフにおける1年後の精神科患者への批判的な感情態度は、ベースラインよりも有意に高く、また、フィデリティが中等度の施設全スタッフよりも有意に高いことが示された。フィデリティの高い施設および中等度の施設では、1年間で感情態度に有意な変化は認められなかった。

以上、本論文は1年間の心理教育普及ガイドラインの実施度による施設スタッフの家族心理教育に関する知識や治療的態度の変化の分析から、ガイドラインの実施度の高さが、心理教育に関与するスタッフだけではなく、その施設で勤務する全スタッフの知識や治療的態度に肯定的な変化を及ぼすことを明らかにした。本研究はガイドラインの活用が、家族心理教育の普及阻害要因として知られている施設スタッフの知識不足や治療理念の相違といった問題を克服するために有用であることを示し、家族心理教育の普及に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。